

地球との付き合い

三
中
37回
木下幸三

秋の陽を浴びて

白い川辺の道がつづく

その道を人は歩く

爪先で大地を蹴る

膝を上げて

足を大きく踏み出す

踵が地球に着く

引つ張る地球

引つ張られながら

人を歩きつづける

もう地球が引つ張らなくなった時

そのときは人工衛星のように

飛び回ろう

そういえば今この道を

懐かしい何かが

通り過ぎた気がする